



TITLE:

表紙・投稿規定・ニュース・プレ
プリント案内・編集後記・目次・
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・ニュース・プレプリント案内・編集後記・目次・裏
表紙ほか. 物性研究 1967, 7(4): 378-379

ISSUE DATE:

1967-01-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85974>

RIGHT:

昭和42年1月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第7巻第4号

vol. 7 no. 4

物性研究

1967 | 1

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で private communication 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため、原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は 400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式・記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。
英字の大、花文字、ギリシヤの指定を忘れないように。oとaと0(ゼロ),uとnとrr,cとeが一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 図の縮尺はいたしませんから適当な大きさに画いて下さい。
6. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により現金で前納していただきます。
P: 400字詰原稿用紙による頁数
X: 別刷所要部数
別刷代 = $\frac{3}{4} X P$ 円
7. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で private communication 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため、原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は 400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式・記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。
英字の大、花文字、ギリシヤの指定を忘れないように。oとaと0(ゼロ),uとnとrr,cとeが一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 図の縮尺はいたしませんから適当な大きさに画いて下さい。
6. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により現金で前納していただきます。
P: 400字詰原稿用紙による頁数
X: 別刷所要部数
別刷代 = $\frac{3}{4} X P$ 円
7. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

ニ ュ ー ス

・次期物性小委員会委員当選者

久 保 亮 五	斎 藤 信 彦 (高分子)	[次点]
宮 原 将 平	広 根 徳太郎	金 森 順次郎
小 野 周	伊 藤 順 吉	森 田 章
永 宮 健 夫	辰 本 英 二	渡 辺 浩
飯 田 修 一	小 谷 正 雄	鈴 木 増 雄
豊 沢 豊	吉 田 銚	(若手) 引地邦男
碓 井 恒 丸	芳 田 奎	(化学) 長倉三郎
伊 達 宗 行	佐々木 亘	(高分子) 和田八三久
中 嶋 貞 雄	中 山 正 敏 (若手)	
松 原 武 生	近 角 聡 信	
石 川 幸 志 (若手)	川 村 肇	
関 集 三 (化学)		

・ 1967年1月16日から1週間米国フロリダ州サンベル島で原子・分子・固体の量子論のシンポジウムが開かれます。主催者はP. O. Löwdin 教授で毎年4週間にわたって開かれる量子化学の冬の学校に引続いて行なわれるのです。今年のシンポジウムはJ. C. Slater 教授の業績を記念として行なわれるので、原子、分子の電子構造、固体のバンドの計算が主なテーマになり、日本からは小谷正雄、山下次郎、伊豆山健夫の三氏が参加されるときいています。Hylleraas 記念の会の記録はRevs. Mod. Phys. に、Mulliken 記念のはJ. Chem. Phys. 特集号となつていますので、今度の会の proceedings も同じような形でpublish されることでしょう。

プレプリント案内

・A GENERAL THEORY OF THE SECOND ORDER PHASE TRANSITION.I

(TAKEO IZUYAMA)

・NONLINEAR KINETICS OF PLASMA.I

NONLINEAR INTERACTION OF ELECTRON PLASMA OSCILLATION

(KENYA MATSUURA AND TAKASHI KURASAWA)

編集後記

1966年も残り3日になりました。12月号はかなりの厚味のあるもので編集員一同も嬉しく思っています。しかし発行が頁数の増大に伴って遅れており、殊に12月号は年末年始に掛つたため大変な遅れになつて了い申訳ありません。今後何とか毎月20日発行のペースに戻すよう努力します。

(12月28日 松田記)

プレプリント案内

・A GENERAL THEORY OF THE SECOND ORDER PHASE TRANSITION.I

(TAKEO IZUYAMA)

・NONLINEAR KINETICS OF PLASMA.I

NONLINEAR INTERACTION OF ELECTRON PLASMA OSCILLATION

(KENYA MATSUURA AND TAKASHI KURASAWA)

編集後記

1966年も残り3日になりました。12月号はかなりの厚味のあるもので編集員一同も嬉しく思っています。しかし発行が頁数の増大に伴って遅れており、殊に12月号は年末年始に掛つたため大変な遅れになつて了い申訳ありません。今後何とか毎月20日発行のペースに戻すよう努力します。

(12月28日 松田記)

基 研 研 究 会 報 告

s - d 交 換 相 互 作 用

京都大学基礎物理学研究所

目 次

講義ノート

固体物理学Ⅱ.....	中嶋 貞雄 349
金属強磁性Ⅰ.....	金森順次郎 367
液体ヘリウムⅡの中の吹き流し渦輪.....	水原 律子 375
ニ ュ ー ス	378
プレプリント案内	379
編 集 後 記	379
基研研究会報告	
$s-d$ 交換相互作用	長岡 洋介・三輪 浩 A1

目 次

講義ノート

固体物理学Ⅱ..... 中嶋 貞雄 349

金属強磁性Ⅰ..... 金森順次郎 367

液体ヘリウムⅡの中の吹き流し渦輪..... 水原 律子 375

ニ ュ ー ス 378

プレプリント案内 379

編 集 後 記 379

基研研究会報告

$s-d$ 交換相互作用 長岡 洋介・三輪 浩 A1